



Lend a Hand
手を貸そう

国際ロータリー第2750地区多摩東グループ
東京多摩グリーンロータリー・クラブ

Weekly Report



クラブ会長テーマ 手を貸そう! そして強く握ろう!

2004-2-26/27 第642回例会 NO.14-31 2004-3-3 発行

2003~04 年度 地区大会

於 新高輪プリンスホテル・国際館パミール「崑崙」

第1日: 2月26日 (木)

◎司会 吉川 精一・室町 澄子

◎本会議・点鐘 ガバナー 鈴木 正二

◎国歌斉唱

米国(グアム)・サイパン・ミクロネシア・パラオ・日本

◎ロータリーソング「我らの生業」斉唱

伴奏: 航空自衛隊航空中央音楽隊

◎RI会長代理・来賓紹介 ガバナー 鈴木 正二

◎参加クラブ紹介

◎物故会員(36名)に対する黙祷

◎歓迎の言葉 ホストクラブ会長 曾我部岩雄

◎ガバナー挨拶 ガバナー 鈴木 正二

◎RI会長代理挨拶ならびに現況報告

RI会長代理 千 玄室

◎特別功勞表彰

服部禮次郎(東京銀座RC)

◎御講話「日本とトルコについて」

三笠宮寛仁親王殿下

<コーヒーブレイク>

◎記念演奏会

航空自衛隊航空中央音楽隊とWE 3



◎フォーラム

テーマ「100周年へのプロローグ

いま、チャレンジのとき」

パネラー 海沼美智子

パネラー 坂本 且子

パネラー 杉本 由子

パネラー 廣瀬可世子

インタビュアー 吉川 精一

インタビュアー 室町 澄子

◎閉会点鐘

ガバナー 鈴木 正二

第2日: 2月27日 (金)

◎司会

吉川 精一・竹内 陶子

◎本会議・点鐘

ガバナー 鈴木 正二

◎国歌斉唱

東京多摩グリーンロータリー・クラブ事務局

東京都多摩市落合1-43 京王プラザホテル多摩561号
TEL 042(372)6463 FAX 042(372)6491
E-mail tamagrc@cello.ocn.ne.jp

【例会場】京王プラザホテル多摩・たまつばき4階

【例会日】●毎週水曜日12:30 ●月の最終例会18:30

【会長】大松誠二 【幹事】藤本吉文

【クラブ会報委員長】赤尾恭雄 【副委員長】正房正孝

【委員】遠藤二郎・平野行廣・佐伯和廣・澄川昇・高木淳光・由井眞司・小田泰樹

米国（グアム）・サイパン・ミクロネシア・パラオ・日本

◎ロータリーソング「我らの生業」斉唱
伴奏：航空自衛隊航空中央音楽隊

◎RI会長代理・来賓紹介 ガバナー 鈴木 正二

◎ガバナー挨拶・現況報告 ガバナー 鈴木 正二

◎各種委員会報告

登録委員会 委員長 大会登録委員長 日野 一
第1日登録 2,602名
第2日登録 1,268名 総登録：3,870名

信任状委員会 委員長 パストガバナー 松崎 勝一

選挙委員会 委員長 パストガバナー 加来 浩二

決議委員会 委員長 パストガバナー 川尻 政輝

◎大会決議案採択 ガバナー 鈴木 正二

◎ガバナー・エレクト挨拶
ガバナー・エレクト 仲田 順和

◎ガバナー・ノミニー挨拶
ガバナー・ノミニー 市川伊三夫

◎記念事業の目録贈呈及び記念品贈呈
千 玄室RI会長代理・松崎直前ガバナー
R財団・米山奨学会・バギオ基金

◎記念講演
「プロジェクトX ～私の出会った挑戦者たち～」
講師： NHKエグゼクティブアナウンサー
国井 雅比古

第2日記念講演 講師プロフィール



国井 雅比古 氏

NHKエグゼクティブアナウンサー
1949年山梨県生まれ
国立東京学芸大学附属高校を経て
東京大学卒業
1973年NHK入局
「プロジェクトX挑戦者たち」の
キャスターなどを務めている

◎RI会長代理所感 RI会長代理 千 玄室

◎国際大会PR PR部長 坂部 慶夫

◎次期地区大会ホストクラブ会長挨拶
東京港南RC会長 東 正躬

◎閉会の言葉 大会実行委員長 木村 篤人

◎閉会点鐘 ガバナー 鈴木正二

<昼 食>

◎コンサート (国際館パミール「北辰」)
東儀秀樹記念演奏会
※東儀秀樹氏、東京銀座RC入会

<懇 親 会>

◎開宴 司会 日野 一
司会 神田 紅

◎ガバナー挨拶 ガバナー 鈴木 正二

◎乾杯 ガバナー・ノミニー 市川伊三夫

◇懇 親◇

◎閉会挨拶 地区幹事 並木 光治
「手に手つないで」

閉宴

◎出席報告

- ・会員総数 43名
- ・出席義務者数 42名(出席免除者2名)
- ・出席者数 25名
- ・欠席者数 17名(事前MU0名)
- ・出席率 59.52%
- ・欠席者：藤原 正範、萩生田茂夫、桧垣 昭、平野 行廣、加藤喜三郎、北村 幸彦、小林 正、小泉 博、小城 章員、正房 正孝、宮村 宏、根本 泰守、小田 泰機、菅井 信夫、澄川 昇、高木 淳光、高野 範城
- ・補填MU：無し

ポール・ハリスを我々の心に！ Part 32

ポールは、ウォリングフォード高校を卒業すると上級学校への進学を望んでいた。祖父は、ポールの希望を入れて学費の面倒をみると言ってくれた。

祖父は教育について高邁な見識を持っていて、ポールの知識欲が旺盛なことについては、高い評価をしてくれていたようだった。

ポールが心に秘めていたことの一つは、祖父に対する不変の愛だった。それは祖父もうすうす感じていたようだった。ポールはいろいろ悪戯もしたが、時には、居間のストーブの脇ですすり泣いている祖父の膝の中に飛び込んで、慰めてあげることもあった。そのような時、祖父はとても嬉しそうだった。



ところが後年になって、ポールは祖父母の信頼を裏切って失望させるようなことをやった。ブラック・リバー・アカデミー・バーモント陸軍教導学校、バーモント大学やプリンストン大学でのポールの学業成績は、当時の陳腐な教程に興味を持てなかったこともあって、並み以下だった。

文学、哲学、歴史、人文科学や社会科学は重要には違いないが、ポールは課外活動、特に反抗的で法律を無視するような傾向の活動から得るところが大だと考えていた。

先生の中には、ポールが強烈な印象を受けた人物が何人かいた。バーモント陸軍教導学校のスプーナー少佐、バーモント大学のベティ教授（ペット爺さん）、そして何と言ってもプリンストン大学総長を数年間勤めてからウッドロウ・ウィルソン大学に転任されたジェイムス・マッコッシ博士だった。エジンバラ、グラスゴーとベルファースト大学を経て来任されたこの著名な教育者から論理学と心理学を学んだことは非常に幸運なことだった。博士は「ジミー」の愛称でひたしまれ、博士の後ろ姿や身のこなしは祖父そっくりだった。

プリンストン大学在学中の冬のある寒い日のこと、ジョージ伯父さんから電報が来た。「祖父に会いたければ、直ぐ帰れ」。ポールはその意味が読めたので、取るものも取りあえず汽車に乗り、ニューヨークで北国行きに乗り換えた。

汽車が懐かしい谷間に入ると、寒々として荒涼たる風景に移り変わり、その彼方に葬列が連なるのを見てポールは不吉な予感がした。ウォリングフォード駅のプラットフォームに降り立った時、プレストンという名の少年が駆け寄り、ポールは祖父の死を告げられた。

(コーナー担当：赤尾 恭雄)

ポール・ハリスを我々の心に！ Part 33

急な知らせで帰ったポールは、祖父の死について次のような話を聞いた。

祖父は、冬の早朝の日課だった雪掻きから風邪を引いて帰ったが、その夜はいつもの時間にベッドに入った。しかし、翌朝はいつもの時間に目を覚まさず、祖母は祖父の息遣いの荒いことに気づいた。祖父は昏々と眠り続けていたので、祖母は日が昇ると直ぐにジョージ伯父さんに電報を打った。知らせを受けた伯父さんは馬車を駆ってかけつけ祖父を診察した結果、「パパは肺炎らしいが、普段から身体が丈夫な人だから、早く良くなって貰えると良いんだが。兎も角、経過を見ましよう、峠は今晚でしょう」と祖母に告げた。急を聞きつけ近所の人々も代わる代わる駆けつけて祖父の病状を心配した。

その日の午後、再び、メリー伯母さんを伴って訪れたジョージ伯父さんは祖父を再度診察したが、夕刻、ポールの両親をはじめ近親者に電報を打つよう指示した。急の知らせを受け、親族や近所の人達が取る物も取りあえず駆けつけて祖父の回復を祈りながら見守ったが、ジョージ伯父さんは遂に匙を投げた。

祖父の葬式は簡単だった。献花は何時も台所と食堂の窓に飾ってあった、ゼラニウムの鉢植えだけだった。牧師さんは要領よく祖父の経歴を紹介し、コングリゲーション教会所属のテナーのハーラン・ストロング、ソプラノのカール・ヒリアードとその姉で未亡人のメリー・クレッグホーンの3人で、賛美歌 228 番「妙なる道しるべの光よ」その他以前何十回も歌ったことのある愛唱歌を合唱した。伴奏はなかった。

埋葬を済ませ葬儀が滞りなく終わった後、祖父の遺言状が開封され、その読み手はポールが指名された。遺言には財産を三分割すること、三分の一は無条件でメリー伯母さんへ、三分の一はジョージ伯父さんに信託してポールの父が生涯の受益者になること、残る三分の一は祖母が自由にできること、ただし祖母の希望によってはポールの今後の教育費に使ってもよいと書いてあった。周囲はメリー伯母さんとポールの父とポールが同格に扱われると思っていたので驚いていたが、ポールの父は遺産をジョージ伯父さんに信託されてひとり不満だった。無能だということでも面目を失ったポールの父はひどく悲しそうだったが、ポールは、祖父が晩年、居間の安楽椅子でそのことに心を悩ませ涙していた姿を思い出した。

(コーナー担当：赤尾 恭雄)

この物語は、ポール・ハリスの自伝『ポール・ハリスの生涯』(1901年刊)に基づいて書かれた。この中で、ポールは祖父の死について、

『ロータリー知識』 入門編
私のロータリー体験—その1

高野孫左エ門(第2620地区DPG)

私なりに私が今感じているもの、或いは私自身がロータリーとどういう関わりを今まで持ってきたかということの紹介をしながら、皆さんにロータリーを考えていただきたいと思います。1982-83年度が第2620地区(山梨・静岡県)のガバナー年度でした。私がそれまでの約20年近いロータリアンとしてロータリーを感じていた時と、何かロータリーに対する理解というか、何かロータリーがこういうものだったかということ自分を自分で体得する大きな契機になったチャンスでありました。ガバナーという仕事、これは個人が受けた栄誉とかとは別に、多分ロータリー世界の中ではロータリーを別の形で味わい直す大変大事なチャンスを与えられた一人であろうと思います。また今年度の6月までの3年間、R.I.の拡大委員を、また15年間「ロータリーの友」の編集委員長をさせて頂く中でロータリー感と、拡大委員という立場を通してロータリーの醍醐味を味わわせていただいたことを整理してお話いたします。

そこで総括的に感じることは、我々はロータリーの知識が一杯詰まった百科事典のようなロータリアンを作ろうとしているのではなく、むしろ人間としての豊かさ、誠実さ、人間らしさ、こういうものが光るようなロータリーというグループ、いわばそのボランティアなアソシエーションが一人一人の人間を輝かしい顔で活かしていく上に実に見事な支えにロータリーがあると確信しています。

キリスト教には聖典があるとよく言います。じゃロータリーはどうだろうか、私はロータリーはその聖典がないのがロータリーだと思っています。ロータリーは人を規制し、人を枠の中に入れる、そういうグループではないと思います。我々は、ロータリーの先輩がその言動や言行の中で、我々をゆり動かす或いは感動を与えるようなもの、それは実に沢山ありますが、それを出来るだけ皆で触れてその感動を受け止めるべきだと思います。同時にその中で何を選び何に従うかということは、ロータリーの正にボランティアな選択以外にないと思います。ロータリーが本当に魅力のある団体であり、ロータリーが活力のあるアソシエーションとして働く時には、こうしたファジーなものでなければならないと思います。そういう方達が集まりながら、そのボランティアの選択に耐え得る先輩としての、或いは指導者としてのロータリアン像が、それぞれのクラブの中に、地区の中にどれだけ蓄積されているかということが、ロータリーの魅力で

あり指導力であります。更にはロータリーの将来に向かって拡大、発展させる力ではないかということをお私はこの頃感じています。1993年R.C.研究会資料から

(コーナー担当:遠藤 二郎)

★「ロータリーの友」拾い読みコーナー★

2月号 《言いたい聞きたい》より

“標準会員数制”の導入を提案する—質と量の公平化
名寄RC 坂東 正美 氏

(第2500地区 北海道 経営コンサルタント)

戦略に欠けた、従来の画一的な会員増強・拡大運動が、大都市圏の努力不足を生み、これを、弱小な地区およびクラブの異常な努力によって補うという結果を招いています。

現在の日本の人口から試算すれば、国内34地区を平均すると、1,189人につき一人の会員が、見方を変えると人口1万人に対し、会員8.41人の会員がいることになります。

ここでは前者を「クラブ標準会員数」、後者を「地区標準会員数」と仮に定義します。

さて、国際ロータリー日本事務局奉仕室提供の資料(9月末現在)によれば、増強努力1位の第2800地区(山形県)567人に対して一人の会員、標準会員数1,046人に対して、会員は2,195人です。

一方、34位の2580地区(東京都・沖縄県)では2,060人に対して1人、標準会員数6,578人に対して、会員は3,797人しかおりません。国内人口の57.4%を占める、下位15地区合計標準会員数への不足数が、実に10,600人です。クラブ間格差では、さらに顕著になります。

私の知る顕著例は、人口100人当り一人、標準会員数二人に対し会員25人です。増強努力第2位の第2500地区(北海道東部)では、会員一人当り人口200~500人が主流です。全国では、会員1,500人以上につき会員一人というクラブが多数あり、しかもその大部分が、大都市圏クラブです。

会員権利・義務の平等行使結果として、弱小クラブが、国際ロータリー(RI)等の人頭割賦課金の重荷にさいなまれる現状は、見逃せません。国内組織喫緊の課題は、大都市圏のクラブが、標準会員数を達成確保することです。同時に、弱小クラブの運営を助けるために、標準会員超過員数分の賦課金をカットし、それを地域奉仕活動に、活用させて欲しいのです。

最終的には、クラブへの人頭割賦課金は、上記の標準会員数を基に課せられるべきであります。たとえ会員の自主行為といえども、ロータリー財団寄付金・米山奨学金寄付についても、標準会員数を念頭に置き、各クラブの努力結果を、評価すべきではないでしょうか。

(コーナー担当:正房 正孝・高木 淳光)